

# 妊娠期における夢の機能

——初産婦5人の夢分析から——

## An Analysis of Primiparae Dreams: Five Functions of Dreaming during Pregnancy

山 根 望\*

Nozomi Yamane

### (要旨)

妊娠が判明してから女性は、激しい身体的・心理的・社会的変化を経験する。特に、初産婦は心理的葛藤を抱える場合が多い。夢は夢主に関する豊かな情報を含み持っているため、妊娠中に女性が心理的に母親になっていくプロセスを明らかにするために初産婦の夢を調査することは非常に有効である。しかしながら、初産婦の夢に関する縦断的研究はほとんど行われていない。

本研究では、5人の初産婦から合計165個の夢を収集し、母性に関連する夢の機能という観点から分析した。本研究では、操作的に定義すれば、母性とは次の4つの要素から成る。すなわち、①生理、妊娠、出産、授乳などの母性的身体機能、②自分より弱いものに対する「かわいい」「いとおいしい」といった母性的感情、③子どもの要求を満たし、適切な養育を行う母性的行動、④「この子は私の子どもである」「私はよき母親になりたい」といった母性的意識である。

分析をする際には、できる限り夢についての夢主の連想や感想に基づいて夢解釈を行った。その結果、5人に限って言えば、母性に関する機能が少なくとも5つあることが明らかになった。すなわち、①受胎を教える機能、②母性的行動を練習させる機能、③出産に対する準備をさせる機能、④育児に関する助言をする機能、⑤母性的意識の発達を促す機能である。妊娠期から夢は母性的行動に関わる具体的場面を設け、夢主に母性的行動を練習させていた。母性的行動（授乳）を練習するなかで夢主の育児不安が減り、母性的感情や母性的意識が発達した事例が2つあった。また、子どもの性別や障害に関する不安が現れた夢を見ることによって、夢主の母性的感情や母性的意識が発達した事例が1つあった。母性に関連した夢を見る頻度は個人差が非常に大きかったが、これは初産婦の性格やそれまでの乳幼児との関わりなどさまざまな要因が影響していた。

### 1. 目的

花沢 (1992) は、出産後の子どもへの適切な養育には受胎時からの母性の形成が重要であると述べ、妊娠期における母性の研究の重要性を指摘している。特に初産婦は、激しい身体的変化を初めて経験する。現在、産婦人科医、助産師、および看護師が妊産婦の身体

的、心理的ケアを行っている。しかし、精神疾患の既往歴がある妊産婦など気がかりなケースや、若年層での望まない妊娠・出産といった虐待のリスクが高い妊産婦に対しては妊娠期から心理職によるカウンセリング等の心理的支援が行われることが望ましい。また、虐待の予防という観点からも、母性の発達や心理的安定を目的とした妊産婦カウンセリング

\* 山口大学大学院東アジア研究科博士課程 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

グが今後必要と考えられる。そのためには、母親になるプロセスや母性を発達させる要因を妊娠期から調査・研究する必要があるだろう。しかしながら、母性に関する従来の研究は、出産後の育児期を対象とし、子どもの発達という視点から母親を分析・考察するものが多い。また、女性（母親）の立場から妊娠期における母性を研究したものは、Rubin (1984)、大日向 (1988)、蘭 (1989)、および花沢 (1992) くらいと非常に少ない（山根・藤井・名島, 2008）。ちなみに、本研究では母性を操作的に定義すれば、母性は次の4つの要素から成る。すなわち、①生理、妊娠、出産、授乳などの母性的身体機能、②自分よりか弱いものに対する「かわいい」「いとoshii」といった母性的感情、③子どもの要求を満たし、適切な養育を行う母性的行動、④「この子は私の子どもである」「私はよき母親になりたい」といった母性的意識である。表1は母性の各構成要素と具体的説明をまとめたものである。

母性的身体機能の一つに受胎があるが、受胎と夢にも重要な関係があるようである。Van de Castle (1994) によると、受胎夢には

丈夫な赤ちゃんそのものが現れたり、新しい植物が成長するという内容のものが見られた。また、受胎夢には大きな月に象徴されるような女性性や豊饒性が現れる。

夢には夢主の同一性の様態や心理的葛藤が現れる（名島, 2003）。したがって、初産婦の心理を明らかにする方法として夢分析が非常に有効である。妊娠期の夢に関する先行研究としては、Hall & Van de Castle (1966) が夢を5つの感情カテゴリーに分類したものである。武内 (1984)、的場 (1998)、原田 (2006) は、Hall & Van de Castle (1966) の分類を参考に、夢のなかの感情を6つあるいは7つに増やして分類している。彼らの研究から、妊産婦の夢には不安や恐怖の感情が多いことがわかった。鐘 (1979) は、20歳代の3人の初産婦の283個の夢を調査したが、初産婦の夢は個性的であるが出産に関係した夢には不安なものばかりで希望や喜びの感情はまったくなかったと結論づけている。

しかしながら筆者は、妊娠期の夢に現れる感情は多岐にわたっており、名島 (2008) が分類した計16個の感情カテゴリーを用いたほうが妊産婦の心の動きをより詳細にみてい

表1 母性の各構成要素と具体的説明

母性の構成要素	具体的説明
①母性的身体機能	・妊娠の成立と継続に必要な身体的機能（生理、排卵、受精、着床、胎盤、羊水）。 ・分娩の苦痛の受容。 ・乳児を養育するに必要な身体的機能（母乳）。
②母性的感情	・自分よりか弱いもの（子どもや小動物）に対する「かわいい」「いとoshii」といった親愛感。
③母性的行動	・子どもの要求に応じた適切な行動（授乳、おむつ換え、入浴、着替え）。 ・子どもの健康と安全に配慮した行動。 ・社会的・文化的に適切な行動を子どもに伝えること（しつけ）。
④母性的意識	・「この子は私の子どもである」という意識。 ・「私はこの子の母親である」という意識。 ・母親としての自己の受容。 ・子どものために自分（性格、生活、行動様式）を変えようとする意識。 ・子どもに元気に育って欲しいという意識。 ・子どもを守らなくてはならないという意識。

くことができると考えている（名島・山根、2008を参照）。ここでいう16個の感情カテゴリーは、①「幸せな」「大変すばらしい」「この上なく満足した」の群（カテゴリー名は**幸福感**）、②「わくわくした」「興奮した」の群（カテゴリー名は**興奮**）、③「楽しい」「うれしい」「気持ちいい」の群（カテゴリー名は**楽しさ・喜び**）、④「親しみのこもった」「なじみ深い」「いとしい」の群（カテゴリー名は**親愛感**）、⑤「ほっとした」「安心な」「くつろいだ」の群（カテゴリー名は**安心感・落ち着き**）、⑥「驚いた」「仰天した」の群（カテゴリー名としては**驚き**）、⑦「困惑した」「あわてふためいた」「混乱した」の群（カテゴリー名は**困惑・混乱**）、⑧「不安な」「心配な」「落ち着かない」の群（カテゴリー名は**不安・心配**）、⑨「悲しい」「落胆した」「うつうつした」「さみしい」の群（カテゴリー名は**悲しみ**）、⑩「怒った」「しゃくにさわる」の群（カテゴリー名は**怒り**）、⑪「恐ろしい」「ぞっとする」の群（カテゴリー名は**恐怖**）、⑫「不愉快な」「嫌な」「気持ち悪い」の群（カテゴリー名は**不快・嫌悪**）、⑬「焦った」「張りつめた」の群（カテゴリー名は**焦り・緊張**）、⑭「すまない」「申し訳ない」の群（カテゴリー名は**罪悪感**）、⑮「嫉妬している」「うらやむ」の群（カテゴリー名は**嫉妬・羨望**）、⑯「劣った」「恥ずかしい」の群（カテゴリー名は**劣等感・恥**）である。

そこで筆者は5人の初産婦の夢のなかの感情を計16個の感情カテゴリーに分け、また夢内容をも合わせて吟味してみた（山根・名島、2010）。その結果、「楽しさ・喜び」「不安・心配」「焦り・緊張」が多く見られたが、これは、武内（1984）、的場（1998）、原田（2006）の結果と類似していた。わが子が登場した夢には親愛感が現れることが多かった。これは、①母親としての自分を受け入れつつあること、②胎動の喜び、③育児生活についての

肯定的イメージが関係していた。また、不安や心配の感情は育児に対する不安や「子どもを守らなくてはならない」という母性的意識の発達と関連があった。

Garfield(1990)とMaybruck(1990)は、動物の夢が増え、動物の種類も妊娠経過とともに変化すると述べている。例えば、妊娠初期の女性の夢には、オタマジャクシやサンショウウオなどの水生動物が現れる。また、妊娠中期には、子猫や子犬などの非常に可愛らしい動物が夢に現れ、妊娠後期になると、猿のような動物もしくは他の大きな動物が夢に現れる。彼らによると、妊娠の経過とともに夢に現れる動物が大きくなっているため、これらの動物の夢は胎児を象徴しているという。

次に筆者は、本研究で取り上げる5人の初産婦の夢のなかに登場した動物や動物に順ずるもの（恐竜やゾンビなど）について分析してみた（山根・名島、2009）。その結果、妊娠・育児期の夢に登場した動物には、①夢主の赤ちゃんに対するイメージ、②流産に対する不安、③出産や育児に対する不安、④母性や母親同一性の発達の様態を現していたものがあつた。

ところで、夢の機能ということに焦点をあてると、的場（1998）が調査した夢では、夢主が授乳などの場面を通して母性的行動を練習したり、赤ちゃんをイメージ化したりしていた。河合（1988）は夢には現実生活にある違和感を調節する機能があると指摘しているが、原田（2006）や筆者の収集した初産婦の夢にも妊娠期の生活ではあまり食べられないものを食べたり、できない運動をしたりした夢があつた。おそらく、今までと異なる妊娠生活での違和感やストレスを調節する機能が夢にあつたと思われる。また、夢に現れた不安や恐怖の感情は来るべき出産に備える働きがある（Winget & Kapp, 1972；武内、

1984；的場；1998；原田，2006）。

筆者は以前、（本研究でも取り上げる）初産婦Aの6個の夢（育児期の夢3個を含む）を分析した（山根，2006）。その結果、夢には①母親としての自覚を促す機能（母親としての同一性の発達を促す機能）、②母親としての同一性の様態を示す機能、③母親としての同一性と社会人としての同一性とのバランスを調整する機能、④子育てに関するアドバイスを与える機能があることを明らかにした（ただし、①②④は出産後に見られた夢の機能）。山根（2006）では、妊娠期における夢の機能は③のみと結論付けたが、改めてAの妊娠期の夢を吟味すると、妊娠期から母親としての自覚（本研究でいう母性的意識）を促していると思われる夢があった。また、他の調査協力者4人の夢を見ても、夢が夢主の母性の発達に重要な影響を与えていると思われる夢があった。したがって、本研究では、初産婦5人の妊娠期の夢に現れた母性に関する夢を吟味し、妊娠期における夢の機能について分析する。

## 2. 夢の調査および分析方法

### 2-1 調査方法

夢主が夢を見たら、能動的夢分析（名島，2003）の考え方をもとに作成した夢記録に記録してもらった。能動的夢分析とは夢主中心の夢分析で、夢主が夢について深く内省し、夢の意味を発見できるような環境を夢面接者が質問を通じて能動的に整えてあげるというものである（名島，2003）。この質問には、①夢の各構成素材について問う「夢素材連想質問」、②夢全体についての感想を問う「全体感想質問」。③夢のなかのポイントないし強調点を問う「夢ポイント質問」、④夢の伝達の・警告的側面について問う「伝達-警告質

問」、⑤夢と夢の関連性（共通点ないし相違点）について問う「夢関連性質問」、⑥夢自己と覚醒自己との対応性について問う「対応性質問」、⑦夢のなかの潜在感情について問う「潜在感情質問」、⑧夢の抽象的・質的側面について問う「抽象性質問」、⑨夢素材と覚醒素材とを対提示する「対提示質問」がある。名島によると、①②の質問は従来からよく行われている質問で、①②の質問で有益な連想がなされなかった場合、③④の質問を行う（①②③④の質問を一般的介入技法という）。それでも、有益な連想が行われなかった場合、⑤⑥⑦⑧⑨の質問を行う（⑤⑥⑦⑧⑨の質問を特殊的介入技法という）。夢面接者がいろいろな質問をしても夢主の反応がきわめて乏しい場合であっても、可能な限り夢主の内的枠組みに沿って解釈を行う（名島，2003）。本研究でも、筆者（調査者）の理論や知識で夢を解釈するのではなく、できるかぎり夢主自身が夢の意味を発見することができる質問を調査協力者に行った。

能動的夢分析を採用した理由として、夢のイメージはそれまでの夢主の経験や知識、また価値観をもとに作られているものであるので、調査者が調査者自身の枠組みから勝手に解釈することは夢主にとっての夢の意味を損ねる可能性があると考えからである。加えて、調査者主導の夢分析を実施することは、夢主が夢の意味を調査者に委ねる形となりやすく、夢主自身の自由な語りや深い自己内省を妨げると思われるからである。

本調査では、初産婦に調査協力の承諾を得たあと、各質問の説明を書いた書類と、夢を記録してもらう用紙をメールにて添付して送った。夢の記録用紙には、①夢を見た日時と場所、②夢内容、③夢のなかで夢主が体験した感情、④夢から覚めた時の感想、⑤全体感想質問、⑥夢ポイント質問、⑦伝達-警告

質問についての項目が書かれている。調査協力者は夢を見たあとできるだけ早くに記録用紙に記述してもらうよう依頼した。夢の記録が送られてきたら、後日メール、電話、あるいは家庭訪問をしてその夢に関する夢素材連想質問や対応性質問を行い、また記録の内容や妊娠経過などについて質問した。

## 2-2 調査期間

妊娠2か月頃から出産までに見た夢を報告してもらった。調査協力者はいずれも筆者の知人やその関係者である。初産婦Aの調査期間は2005年6月から7月の2か月間、初産婦Bの調査期間は2006年4月から同年12月までの9か月間、初産婦Cの調査期間は2007年2月から同年9月までの8か月間、初産婦Dの調査期間は2008年4月から同年10月までの7か月間、初産婦Eの調査期間は2008年10月から翌年4月までの7か月間である。調査を依頼したより前の夢に関しては思い出せる限り思い出しもらった。したがって、収集した夢のなかには回想夢も含まれる。

## 2-3 5人の調査協力者の概要と夢の数

5人の調査協力者の概要は、以下のようなものである。本人の希望により、職業をあいまいにした箇所がある。

①初産婦A：妊娠時27歳。父、母、姉の4人家族。Aは大学院修了後、公立高校で英語

の教員をしていた。そして、高校時代から付き合っていた男性と結婚し、妊娠した。妊娠経過は順調。普通分娩にて男児を出産した。夢の数は妊娠6か月から出産までで合計3個である。なお、Aの場合は最初の夢のみ回想夢で、夢を見た時期から2か月後に報告された。D1は回想夢だが、2か月間も覚えていたという点でAにとって非常に意義深い夢であったと言える。客観性に欠けるかもしれないが、Aの内的世界を映し出しているという点から検討対象に含めた。Aは家庭訪問を行って調査した。夢数は少ないが、一般的介入だけでなく、夢関連性質問や対応性質問といった特殊の介入技法の質問を行った。妊娠する以前に赤ちゃんの世話をした経験はほとんどないが、姉の3人の子どもたちと関わる機会は多かった。

②初産婦B：妊娠時29歳。父、母、兄2人の5人家族。Bは文学系の大学院に在籍していたが、結婚を機に退学した。その後、心理学系の大学院に在籍中に妊娠し、普通分娩にて男児を出産した。Bは女兒の出産を強く望んでいた。学生時代にアメリカに留学した経験を持つ。夢の数は、妊娠1か月から出産まで98個である。Bは筆者自身である。能動的夢分析を専門とする臨床心理士に面接による夢分析を依頼した。したがって、資料の客観性は保たれている。また、一般的介入技法だけでなく、必要に応じて抽象性質問、対応性

表2 調査協力者の内訳と夢

夢主	年齢*1	妊娠前後の職業	調査期間	夢の数			
				妊娠初期	妊娠中期	妊娠後期	合計
A	27	高校教員	妊娠7か月～8か月	0	2	1	3
B	29	大学院生	妊娠1か月～出産	39	27	32	98
C	30	英語教育関係	妊娠2か月～出産	13	13	5	31
D	31	金融会社	妊娠4か月～出産	2	13	6	21
E	34	英語教室運営	妊娠5か月～出産	0	9	3	12

\*1 妊娠時の年齢。

質問、および夢関連性質問が行われた。妊娠する以前に、赤ちゃんの世話をした経験はなかった。

③初産婦C：妊娠時30歳。父、母、双子の妹の5人家族。Cは大学卒業後、教育関係の仕事をしていたが結婚を機に退職した。結婚した直後、実父が他界した。妊娠判明時は専業主婦であった。高校生のときから弓道を続けている。普通分娩にて女兒を出産した。夢の数は、妊娠2か月から出産まで31個である。調査を開始した時期は妊娠3か月に入った直後である。したがって、D1からD4まで回想夢である。日にちは明確でないが、「1月の第2週」と時期がはっきりしており、夢内容や夢のなかの感情なども鮮明である。また、Cの場合にも、これだけ詳細に記憶していたということはこれらの4つの夢がCの内的世界を表し、Cにとって意義深いものであったからであると考えられる。したがって、D1からD4の夢も検討対象に含めた。Cの場合は、メール、電話、および家庭訪問による追調査を行った。Cの場合、一般的介入技法の質問で有益な連想が得られた。特殊的介入技法のなかでは、抽象性質問と対応性質問を行った。末の妹が出産後里帰りしていたさいに、甥や姪の世話をした経験がある。

④初産婦D：妊娠時31歳。父、母、弟の4人家族。Dは大学卒業後、金融会社に勤めていたが、結婚を機に退職した。持病を患っていたが、治療が終わった後に妊娠した。妊娠判明時には専業主婦。普通分娩にて男児を出産した。夢の数は、妊娠4か月から出産まで21個である。Dの場合は遠方でメールと電話による追調査を行った。一般的介入技法による質問と、抽象性質問および対応性質問を行った。妊娠する以前に赤ちゃんを世話した経験はなかった。

⑤初産婦E：妊娠時34歳。祖父母、父、母、

弟の6人家族。Eは看護短大卒業後、看護師をしていたが、結婚を機に退職した。アメリカ人の夫とともに英会話教室を運営している。普通分娩によって男児を出産した。夢の数は、妊娠5か月から出産まで12個である。Eの居住場所は筆者と近かったが、筆者と都合が合わず面接と電話をすることができなかった。したがって、メールによる追調査を行った。一般的介入技法の質問では有効な連想がなされなかったため、抽象性質問や対応性質問を行ったが有益な連想が得られなかった。追調査では現実生活での困難感や妊娠にまつわる印象的なことなどについても質問した。結婚する以前に赤ちゃんを世話した経験はなかった。

結局、5人から合計165個の夢を収集することができた。表2は5人の年齢や夢の数などをまとめたものである。表にある妊娠期間の区分は、医学的な区分に基づいている。すなわち、妊娠初期は1か月から4か月まで、妊娠中期は5か月から7か月まで、妊娠後期は8か月から10か月（出産）までである。

調査協力者5人の全体的な特徴としては、①全体的に高学歴で専門的な職業を持ったことがあること、②30歳前後で社会的にも心理的にも安定していたこと（夫も共通した背景を持つ）、③妊娠を希望していたこと、④妊娠経過が順調であったこと、および⑤夫婦関係が安定していたことが挙げられる。つまり、本研究では限定された対象、つまり一般的に見れば心身ともに健康的な初産婦を調査・分析した。5人のなかの相違点は、C以外は妊娠する以前に赤ちゃんの世話をした経験がほとんどなかったということである。

心身ともに健康な初産婦を調査対象とした理由は、妊娠期の夢に関する研究や女性が母親になる心理のプロセスに関する研究がまだまだ不十分であるので（山根・河合・八田・

佐藤・渡邊・名島, 2006; 山根ら, 2008)、適切に母親へと移行したと推測される対象を調査するのが必要であると考えたからである。また、本研究は母性の発達を阻害させる要因を明らかにするのが目的ではなく、妊娠期の夢と母性の様態や発達との関連を調査するのが目的であるので、心身ともに健康で適切に母親へと移行したと推測される対象を調査することが適切であると考えたからである。妊娠経過が順調に進むかどうかは調査を依頼した時点では不明であったが、結果的に5人とも順調であった。

## 2-4 分析方法

能動的夢分析の考え方にに基づき、夢の分析はできる限り夢主の記録と面接内容に依拠した。妊娠・出産に関係がない夢内容であっても、夢主が妊娠・出産について記述しているものはすべて妊娠・出産に関わる夢として検討対象に含めた。

名島(2003)は、夢に関する伝達-警告質問が臨床場面において非常に有効であると述べている。確かに、伝達-警告質問に対して調査協力者が書いた内容を見ると、妊娠生活に適応しようとしたり、あるいは出産や育児に対して準備しようとしたりする初産婦の心理が多く現れていた。そこで本研究では、主に伝達-警告質問に対する調査協力者の記述をもとに分析する。ただし、他の質問であっても、母親としての自己についての夢主の内省が深まったり、育児や出産に対するイメージや指針を得たりしたものなどについても、夢が夢主に対して何らかの働きかけをしたものであるとみなし、それを夢の機能と考える。たとえば、赤ちゃんに授乳する夢を見て、夢主が伝達-警告質問に対し、「授乳は心配しなくていい」と書いていけば、夢を見たことによって夢主の授乳に対する不安が軽減し

たとみなす。つまり、この夢には授乳という母性的行動に対する不安を軽減させる機能があったと捉える。また、全体感想質問や他の質問で、「授乳しているときにはとても幸せな気持ちだった。赤ちゃんが愛おしかった」と書いていけば、夢を見たことで夢主の母性的感情が発達したと考える。したがって、この夢には母性的感情を発達させる機能があったとみなす。夢主の内省がなかなか深まらなかった場合には、夢内容、現実生活での出来事、および夢主の生育歴等を考慮し、夢の機能について吟味した。

## 3. 結果と考察

結論から先に言えば、5人の初産婦の夢を分析した結果、次の5つの機能が見いだされた。それらは、①受胎を教える機能、②母性的行動を練習させる機能、③出産に対する準備をさせる機能、④育児についての助言をする機能、⑤母性的意識の発達を促す機能であった。以下、それぞれについて具体的に検討していく。

### 3-1 受胎を教える機能

受胎と関係がある夢はBで2個あった。表3は、Bの①夢番号、②夢を見た時期、③夢内容をまとめたものである。他の調査協力者には見られなかった。

D1は妊娠週数3週1日目に見られた夢で、ちょうど着床が成立した時期である。伝達-警告質問に対して「着床し始めたことを教えてくれた夢かもしれない」と書いている。胎盤から分泌されるhCG(ヒト絨毛性ゴナドトロピン)は微量で、妊娠したかどうかを妊娠検査薬では判定できない。したがって、初産婦のBがこの夢を見て自分が妊娠(受胎)したことを感じ、実際に妊娠していたことを考

えると、この夢は受胎夢と言える。

Bの夢は赤ちゃんではなく2歳の女の子が登場している。Van de Castle(1994)は受胎夢には何か成長するといった内容や豊饒性が現れていると述べているが、D1はそのような内容ではない。全体感想質問に対してBは、「布団は私にとって特別な場所。安心できる。そこに知らない子どもを入れたことは不思議。でも、あまりにその子が私と寝たがったので、仕方がないのと同時に嬉しかった」と書いている。女の子と添い寝するという行為を自分が受け入れたことをBが不思議に思っていたことがわかる。「布団に入れてあげる」という夢主にとっては今までと異なる行動を取っていることは非常に興味深い。女性が母親になると今までとは異なる行動を取らねばならなくなることと関係があるかもしれない。また、子どもと添い寝することは日本的な母性的行動の一つであり、欧米との文化的差異という観点からも非常に貴重な夢と言える。

D2の夢内容は、受胎夢が起こるメカニズムと関連があるように思われる。全体感想質問に対してBは、「基礎体温が下がっていませんようにいつも願いながら計測するので、基礎体温が上がっていて欲しいという願望が夢に現れたのだと思う」と書いており、夢主自身はこの夢を見て妊娠を確信したわけではない。記録にもあるように、Bの「妊娠していてほしい」という願望が非常に強いことがわかる。しかし、「こんなの初めて！」

と夢のなかで驚いたように、現実生活においても今までにはない基礎体温の上昇にBの心身がすばやく反応し、夢を通してBに妊娠の可能性を伝えていた可能性はある。

### 3-2 母性的行動を練習させる機能

5人の夢には、まだ経験していないにも関わらず、夢主が具体的な母性的行動を行うものがあつた。的場(1998)は、夢は授乳といった場面を想定して母性的行動を練習させ、来るべき育児に関する不安に対処していると指摘している。的場の分析は非常に評価できるが、的場(1998)の事例は一事例のみなので、母性的行動に関する場面が授乳のみしかなかったことは残念である。ここでは、5人の夢に現れた母性的行動について吟味する。すなわち、①授乳、②おむつ換え、③子どもの健康管理と安全管理、④その他(入浴、あやす、しつけ)に分けて分析する。

#### 3-2-1 授乳

Bが報告した夢は3個であつた。Cでは、2個報告された。A・D・Eについては授乳に関する夢は報告されなかつた。表4は、授乳に関する夢を見た初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。

授乳する夢が報告された妊娠月数は、的場(1998)が報告した夢では9か月のときである。Bが授乳する夢をはじめて見たのは7か月で、Cでは3か月であつた。BとCともに妊娠中期以降に授乳に関した夢をよく見ている。これ

表3 受胎に関するBの夢

夢番号	夢を見た時期	夢内容
D1*	3週1日	布団のなかで私が寝ようとしていると、2歳くらいの女の子が布団の中に入ってくる。布団が狭くなって寝心地が悪いが、何だか幸せな気持ちになる。
D2	3週4日	朝起きたら、デジタルの基礎体温計がみるみるうちに上がって38度以上になり、「こんなの初めて！」とびっくりする。

\*DはDreamの頭文字



表4 授乳に関する夢

初産婦	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D65	7か月	東南アジア風の町が津波でめちゃくちゃになっている。母親が行方不明になった赤ちゃんに授乳するが、激しく泣かれてパニックになる。
	D69	8か月	病院から帰ると白人風の赤ちゃんがいる。授乳しようとするが、熱があるようで激しく泣かれて困惑する。
	D96	10か月	研修所らしきところにある託児所で、白い服を着た男の赤ちゃんを抱き上げる。赤ちゃんに授乳すると、よく吸ってくれたので安心する。
C	D6	3か月	病院を退院して自宅に戻ったら、生まれたばかりの女の赤ちゃんが泣いていた。慌てて様子を見ると、オムツは濡れていないようだったので母乳をあげた。「病院で飲ませたから大丈夫だと思うんだけど」と夫に話したが、赤ちゃんはお腹が空いていたようで、一生懸命飲んでた。
	D24	7か月	母方祖母の家において、生まれたばかりの双子の赤ちゃんに授乳していた。うまく吸えるか心配だったが、しっかり飲んでいるようだった。もう一方の乳首を吸わせようと思ったが、双子だからもう片方はもう一人に吸わせようと思いついた。

は、育児書や母親学級による授乳指導との関連があるかもしれないが、BとCの記録には育児書や母親学級についての記述はないので関連性は不明である。このように個人差があるが、かなり早い時期から授乳に関する夢を見る場合があることがわかる。

次に、授乳時の夢主の感情について吟味する。Bの場合、赤ちゃんに授乳してもうまくいかず赤ちゃんが泣き出す夢が多い。BはD69の全体感想質問に対して、「授乳する夢はすごくリアルだった。授乳がうまくできるかどうか、赤ちゃんが病気になったときにちゃんとわかるかどうかなど育児に対する不安がたくさん出ているなと思う」と書いている。このように、Bの授乳に対する不安は非常に大きかったようである。しかし、D96の全体感想質問に対してBは、「夢のなかで母乳をぐくぐく飲んでくれて嬉しくて幸せな気持ちだった。自分が母乳をあげられることに少し驚いていたところもあったかも。自分にもこういう能力があるんだ、ということを見せてもらった感じがする」と書いている。夢による授乳の練習がうまくいっていることがよくわかる。また、BがD96を見ることによ

て授乳という母性的身体機能が自分に備わっていることを確認したことがわかる。加えて、授乳が成功することによって子どもと関わることの幸福感や期待感が増し、育児に対する不安が減少したと考えられる。D96の感想では「夢のなかで母乳をぐくぐく飲んでくれて嬉しくて幸せな気持ちだった」と書いている。D96は早く赤ちゃんに授乳したいというBの願望が現れていると思われるが、それまで夢のなかでできなかった授乳が、D96では成功したということを見ると練習の機能という側面が強いように思われる。また、「飲んでくれて嬉しくて幸せな気持ち」とBが書いていることから、たとえ願望夢の側面が強かったとしても、この夢を見て胎児との親和的な関係を疑似体験し、Bの母性的感情が発達していたことは確かである。

CはBと比較すると、妊娠3か月というかなり早い段階で授乳する夢を見ていて、夢のなかで授乳を上手に行うことができていた点が異なっている。また、CはD6のなかで授乳中の感情について「優しい気持ちになった。幸せ」と書いており、授乳に関する連想については、「母親になる。子どもを育てる」と書

いている。D24の夢のなかの感情について「生まれたばかりで首が据わってなくて、抱っこするにもすごく注意していた。いっぱい飲んで元気に育って欲しいと思っていた。幸せで、とても安らかな気分だった」と書いている。どちらの夢も赤ちゃんに対する親愛感に満ちており、Cが授乳を幸せな気持ちで行っていたことがわかる。Cの場合、早い時期から母性的感情や母性的意識が発達していたことがわかる。Cが授乳に対して肯定的に考えており、Bと比較すると授乳に関する不安が少なかったと推測できる。また、たとえ早く授乳したいというCの願望が強いとしても、親和的な母子関係の場面を見たことによってCの母性的感情や母性的意識がより発達したことは確かである。

次に、授乳する対象について吟味する。興味深いことに、Bが授乳する対象は妊娠経過とともに夢主にとってより近い存在に変化している。つまり、「東南アジア人風の他人の赤ちゃん→わが子だが白人風の顔の赤ちゃん→わが子（日本人）」と変化している。Bはアメリカに留学した経験を持つことから、東南アジアよりは欧米に対して親近感がある。夢のなかでも欧米が舞台となっている夢は、合計9個（D9、D13、D20、D33、D35、D43、D46、D70、D72）で、舞台は日本だが白人が登場している夢は合計2個（D32、D78）である。一方で、アジアが舞台となっている夢は、合計3個（D65、D82、D90）である。日本が舞台で日本人以外のアジア人が登場した夢はない。欧米とアジアに関する夢数の違いからも、Bにとってアジアよりは欧米のほうに親近感があり、それゆえ授乳する対象が夢主にとってより近い存在になっていると言える。

Cの場合、D6に女兒が現れた理由としては、子どもの性別に対して強い希望はなかつ

たものの、周りの人やC自身も何となく女の子ではないかと思っていたことと関係があるかもしれない。D24の双子の赤ちゃんに関しては、全体感想質問の回答に実の妹2人が双子で、父方に双子の親戚がいると書いている。伝達-警告質問に対しては、「実は双子を妊娠中（…ということではなければいいな、と思う）」と書いている。したがって、Cの周囲には双子が身近な存在であること、また多胎を妊娠することに対して不安があったことがわかる。D24の場合には、赤ちゃんの首が据わっていないなど新生児の特徴がよく現れている。また、赤ちゃんに対するCの抱き方も細心の注意を払って母性的行動を適切に行っていることが特徴的である。

興味深いことに、BのD69とCのD6はともに退院直後に授乳するという場面が共通して現れている。しかし、入院中の自分の母性的行動に対する認識が異なっている。Bは夢のなかで「入院している間に授乳しなかったのかな」と不思議に思っているが、Cは夫に「病院で飲ませたから大丈夫だと思うんだけど」と話している。Bにとっては、病院で授乳したかどうか非常に漠然としているし、夢で授乳した場面が初めての授乳のような印象を受ける。一方、Cも実際に病院で授乳する場面は夢に現れなかったが、「病院で授乳→退院→自宅で授乳開始」という一連の流れが夢主に明確に認識されていたようである。また、夢のなかでも「飲ませたから大丈夫だと思う」と母親としての自分の行動に対して肯定的に評価していることがわかる。早い段階からCの母性的意識が発達していたと推測できる。このように、Cの夢の授乳場面が具体的に、Cが早い段階から母性的意識を発達させていた理由としては、Cの末の妹にはすでに2人の子どもがおり、その妹が里帰りしていた際に同居していたことが考えられる。つま

り、Cは妹の入退院を間近で見えており、産後の母子の様子、また赤ちゃんの世話を手伝っていた経験があったことが関係しているだろう。

### 3-2-2 おむつ換え

おむつ換えは、授乳と同様に出産してから昼夜を問わず行わなくてはならない事柄の一つである。Bの夢におむつ換えが現れた夢は2個である。Cも同じく2個であった。A・D・Eにはおむつ換えの場面は現れなかった。表5は、おむつ換えに関する夢を見た初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。

夢のなかの感情を吟味する。BのD21では、赤ちゃんがおしっこをし始めて慌ててシートで拭いたり、おむつが濡れているので換えようとするがおむつがなくて慌てて買い物に行ったりと、夢のなかの情動は2つとも「困惑・混乱」のカテゴリーに入る。BはD21とD26の感想で「おむつがきちんとかえられるか不安」と書いている。母性的行動が適切に行うことができるかどうかというBの不安が現れている。ただし、D21とD26を比較すると、おしっこされてすぐにお腹に戻すという

行動から、おむつは買いそろえてなかったものの何とかおむつを換えるという行動にまで夢主が変化している。おむつ換えを行えるくらいまでには夢のなかの母性的行動の練習が順調であったと考えられる。

CのD6もBの2つの夢と同様に、赤ちゃんが泣いたので慌てておむつを確認していた。また、夢のなかの感情については、「不安だったけれど、一生懸命育てようと思っていた」と書いている。感情のカテゴリーとしては「困惑・混乱」と「不安・心配」に入るが、子どもを一生懸命に育てたいというCの母性的意識の方が不安より上回っていたことが伺える。D17は亡き実父（結婚直後に他界）が登場したユーモラスで親愛的な夢である。D17の目覚めたときの感想について、「なんだか楽しい気分で目が覚めた。幸せな気持ち」と書いている。夢のなかの感情に対しては、「父は心配していたけど、私はおむつの交換をするのが楽しかった。赤ちゃんを囲んで温かい雰囲気だった」と書いている。Cがおむつ換えに対する不安を全く感じておらず、それを楽しみにすらしていることがわかる。また、「赤ちゃんを囲んで温かい雰囲気だった」と述べていることから、赤ちゃんを迎える心理

表5 おむつ換えに関する夢

初産婦	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D21	3か月	産院のようなところで、どういうわけかお腹の赤ちゃんをお腹から出してベッドに置く。赤ちゃんがおしっこをしはじめたので、慌ててベッドのシートでおしっこをふく。6か月では生きられないと思って赤ちゃんをお腹に戻す。
	D26	4か月	分娩台にあがると2時間を出産し、すぐに病院から退院する。赤ちゃんが泣くのでお尻を触ったら濡れている。慌ててデパートに行ってベビー用品を購入し、なんとかおむつを換えて着替えさせる。赤ちゃんを抱っこする。赤ちゃんが可愛くてたまらない。
C	D6	3か月	病院から退院して赤ちゃんに授乳するとよく吸ってくれる。（詳細は既述）
	D17	5か月	自宅で男の子の赤ちゃんのおむつを交換した。着替えもさせようとしていたら、ふすまが開いて実父が心配そうに様子を見に来た。ふと父の足元を見るとなぜか赤ちゃんのうんちが落ちていた。気をつけてと父に注意したら、とても慌てていた。その慌てぶりがおかしくて、つい笑ってしまった。

的準備が整っていたことも伺える。また、赤ちゃんに関わる喜び、つまり母性的感情が発達していたと思われる。

次に、おむつ換えをするさいの夢主の行動について吟味する。BのD21の場合、紙おむつが4割引であったという理由で購入した。また、どうやっておむつを換えたのかについては覚えていないと記述している。Bは赤ちゃんに適切なサイズのものを選んでいたわけではないし、おむつ換えの場面も漠然としている。Bがそれまで乳幼児と密接に関わった経験が少なく、したがっておむつ換えの経験もなかったことと関連があると思われる。

Cの場合、D6では実際にはおむつを換えてはいないがきちんと排泄の有無の確認ができている。妊娠3か月でありながら、「赤ちゃんが泣く→おむつを確認・交換する→母乳をあげる」という一連の作業を夢のなかで行っている。D17では、赤ちゃんが白いおむつカバーを付けていた。おそらく、最近では珍しい布おむつを付けていたと思われる。布おむつが夢に登場したことは、妹や仲の良い友人が布おむつを実際使用していたことと、C自身も

布おむつにする予定であったことが関係していると思われる。実父と歓談しながら布おむつを換える姿は余裕すら感じさせる。Cがおむつ換えについてほとんど不安を感じていなかったことがわかる。

### 3-2-3 子どもの健康管理と安全管理

子どもの健康管理や安全管理に関する夢がBで2個、Dで1個報告された。A・C・Eでは報告されなかった。表6は、子どもの健康管理と安全管理に関する夢を見た初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。

BのD60に登場した赤ちゃんは脂汗が出てぐったりしているの、発熱しているか、もしくは意識がない非常に危険な状況である。夢のなかの感情について、「びっくり→不安→家が見つからなくて泣きたい気持ち」と書いている。Bが子どもの健康管理に対して不安が大きかったことが伺える。また、赤ちゃんがぐったりしていることの夢素材連想質問に対してBは、「生命の危機。言葉が話せないから母親が状態を把握しないといけない」

表6 子どもの健康管理と安全管理に関する夢

初産婦	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D60	7か月	赤ちゃんを抱いて川辺の道を歩いている。赤ちゃんがぐったりしているのびっくりする。病院に行くために自分のアパートに帰る途中で、赤ちゃんが下痢をいっぱいする。どうしようとすごく不安になりながら小走りですぐ帰ったが、アパートが見つからなくてパニックになる。
	D71	8か月	実家の近くの堤防にいて車の助手席に乗る。だんだん波が近づいてくる。津波だ！逃げなくちゃ！と焦った。気がつくとき生まれたての赤ちゃんを抱いていた。津波に巻き込まれたら大変だと思っていたけれど、同時に自分たちは助かるから大丈夫とも思っていた。気がつくとき夜になっていて、実家に戻っていた。
D	D19	9か月	港の近くのレストランで主人と食事をしていて。ウェイターの人に注文をしようとする、3歳くらいの男の子が海にのりだそうとしている。危ないから離れた方がよいとその子に言うと、僕もレストランで食べたいと言う。子どもはこのレストランで食事するのは駄目で、子ども用の所へ行かなければいけないと言った。主人からも説得してもらおう。食べさせてしまうと、食中毒になると思った。食べてはいけないと何度も説得している。

と書いている。したがって、「子どもの健康管理を母親である自分が把握しなくてはならない」というBの母性的意識が発達していたと思われる。

D71の伝達－警告質問に対して、「大きな危機が間近に迫っているよ、という夢の警告かも。でも、夢のなかで赤ちゃんを抱きながら自分は大丈夫と思っていたので、ちゃんと乗り越えられる危機（出産）だと思う」と書いている。つまり、D71では身の危険と出産とが関連付けられている。B自身はこの夢と母性的行動とを関連付けてはいないが、津波（危機）から子どもを守ろうとしている。したがって、D71も子どもを保護するという母性的行動を練習させていて、夢主もそれが遂行可能なほどに母性的意識が発達していたと言えるのではなかろうか。

次に、DのD19について吟味したい。D19は子どもの健康管理と安全管理両方に関する興味深い夢である。DはD19について、「（夢の）途中から、自分の子どものように接していたので、もしかしたら自分の子どもと思っていたかもしれない」と書いてある。したがって、3歳くらいの男の子はDの子どもとみなすことができるであろう。まず、Dが子どもの安全管理について練習していた場面を分析したい。Dは男の子が海に身を乗り出していたので、危ないから離れた方がよいと注意している。3歳くらいの男児は行動範囲が広がり、それにともなって交通事故など大事故に巻き込まれる危険性がある。夢のなかのDの行動は母親として適切なものである。事故や怪我からわが子を守らなくてはいけないというDの母性的意識が発達していたと言えるだろう。

健康管理に関しては、Dの記録では食中毒から下痢を連想している。つまり、誤飲して下痢をしないように刺激物からわが子を守る

うしていたようである。誤飲は実際に乳幼児の事故のなかで非常に多いものである。D19は、刺激物を子どもが食べて子どもが病気になるように管理・保護するというDの母性的行動を練習させる夢であったと考えられる。

### 3-2-4 その他（入浴・あやす・しつけ）

入浴に関する場面が現れた夢は、BとCでそれぞれ1個ずつ見られた。赤ちゃんをあやす夢は、Bで1個のみであった。しつけに関する夢はDで1個のみであった。表6は、母性的行動、それに関する夢を見た初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。CのD23は母性との関連が見られなかったので省略する。

Bの子猫を洗う夢は山根ら（2009）のなかで吟味した夢であるが、ここでもう一度考察したい。BはD39の記録で、「夢のなかで夫と2人で子猫をお風呂に入れていたので、赤ちゃんの象徴かもしれない」と書いている。つまり、夢のなかでBに甘える子猫は、Bのお腹のなかにいる胎児と結びついていると言える。本来なら子猫を洗うのにはBだけで十分である。しかし、夢のなかでBは夫と協力して子猫を洗っており、Bが濡れた子猫をタオルで乾かす一連の作業は育児に不慣れた両親が赤ちゃんを入浴させる姿とよく似ている。つまり、この夢は、赤ちゃんを入浴させる（ベビーバスで赤ちゃんを洗う場合には沐浴）という母性的行動を練習させていたと考えられる。猫と赤ちゃんが結び付けられたことと、授乳などと比較してBの不安が少なかつたことは、Bは猫を数匹飼っていたことがあり、猫の世話をした経験があることが関係しているだろう。

BはD41の記録に、「赤ちゃんのおもりをしているので、母親役割（筆者注：本研究でい

表7 入浴・あやす・しつけに関する夢

母性的行動	初産婦	夢番号	妊娠月数	夢内容
入浴	B	D39	4か月	玄関のドアを風通しのため開けていたら、小さいトラネコが家のなかに入ってきた。夫と私にとても甘えて可愛らしかったので、「このネコ、飼おうか」と夫が言った。子猫をお風呂に入れて、夫と2人で洗った。
	C	D23	7か月	自宅で男の子2人がお風呂からおむつ姿で出てきて、その母親がバスタオルでふく。その様子を淡々と見ている。
あやす	B	D41	5か月	研修所らしきところにいる。仲の良い友人と夫は採用試験の対策をしなくてはならない。私は隣の部屋で友人の赤ちゃん（生後11か月）を抱っこしたり、あやしたりしながら赤ちゃんのお守りをしながら2人を待っている。
しつけ	D	D19	9か月	3歳くらいの男の子が大人用の食事を食べないように何度も説得する。（詳細は既述）

う母性的行動)を練習していたようにも思う。先週日曜日に初めての胎動があったので、赤ちゃんの存在がより感じられるようになったことも夢に影響しているかもしれない」と書いている。したがって、D41は友人の赤ちゃんという身近な対象を用いてBに赤ちゃんのイメージ化を促し、また赤ちゃんをあやすという母性的行動を練習させていたと言える。また、Bが書いているように、D41における赤ちゃんとの親和的な関係は胎動のはじまりと関連があるだろう。

DがD19のなかで子どもを頭ごなしに叱ったり、怒ったりするのではなく、子どもが納得するまで何度も説得するという行動は、子どもに対する適切なしつけと言えよう。したがって、D19はしつけという母性的行動を練習させる機能があったと言える。また、興味深いことに、子どもが納得するまで夫と協力して子どもを説得している。現実生活でも夫婦の関係性は良好なので、D19にはDと夫との関係性がよく現れている。

### 3-3 出産に対する準備をさせる機能

初産婦にとって出産は苦痛を伴う未知の経験である。新道(1990)は、母性的感情(原

著では母性意識)を発達させる重要な要因の一つに、切迫している出産に対する妊婦の不安や心配を軽減させることを挙げている。ここでは、出産に関する夢を吟味し、それらの夢と夢主の母性的感情との関連を明らかにする。出産に関する夢は、Bで4個、Cで1個報告された。表7は出産に関する夢を見た初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。結論から言えば、出産に関する夢であっても出産に対する心理的準備ではなく、胎児の発育に対する夢主の不安や、出産や育児に対する夢主の肯定感が現れた夢があった。それらの夢についても、出産場面が現れた貴重な夢なので検討対象に含めた。

BのD26は妊娠初期に見られた夢であったが、分娩台という非常に具体的な出産の場面が現れている。ただ、胎児が生まれる瞬間は現れなかったようである。現実に出産を経験していないためであろう。Bは記録によると夢を見た前日に出血し、胎児の状態をかなり心配していたようである。伝達-警告質問に対して、「夢のように赤ちゃんは元気だから心配しなくてよい」と書いている。出産の夢であるが、出産の準備をさせるというより胎児の健康状態に対するBの不安を軽減させる

表8 出産に関する夢

初産婦	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D26	4か月	分娩台上がって2時間で出産し、拍子抜けする。(詳細は既述)
	D44	5か月	いきなり陣痛らしきお腹の痛みが来たが、しばらくしたら痛みがなくなった。その後、実母と喫茶店で、前駆陣痛があったけど、本当に痛かったというような話をする。
	D76	8か月	病院らしきところで、陣痛がはじまっていてかなりお腹が痛い。赤ちゃんが下がるように廊下を歩く私の後ろを夫が心配そうについてきていた。他の妊婦が分娩室に呼ばれるが、自分はなかなか呼ばれないので焦る。
	D92	10か月	妊娠検診に行ってもそのまま入院する。夫が心配そうにしていた。36週なのに助産師から産んでよいと言われる。助産師のとなり5、6歳の男の子がいた。助産師から赤ちゃんは男の子で水頭症だと告げられる。私は男の子だったのと水頭症だということを聞いてショックだったけれど、男の子が可愛くてぎゅっと抱きしめた。
C	D22	6か月	病院から予定日だから入院するように言われ、陣痛も何もなかったが入院した。入院してからも出産がはじまる様子はない。看護師から帰ってもよいと言われたので、母と妹と一緒に買い物に出かけた。

働きがあったと言える。

次に、D44は、夢のなかで前駆陣痛を経験していることが興味深い。Bは全体感想質問に対して、「分娩に対する不安の現れだと思う。夢のなかでも本当にお腹が痛かった。陣痛ってどんな痛みなのかな、と思う時があるのでこういう夢を見たと思う。出産の準備かもしれない」と書いている。妊娠5か月に見た夢なので、Bに実際の子宮の収縮があったとは考えにくい。おそらく、Bが書いているように、D44はこれから起こるであろう出産という危機に備える機能があったと思われる。

D76では、Bは全体感想質問に対して、「8か月も終わって、いつ何があってもおかしくない。夢のなかでは本当に痛かった。夢のなかで出産の準備をしているように思う」と書かれている。したがって、D76は具体的な出産場面を設けて、Bに出産に対する準備を促す機能があったと言える。しかも、D26のように、分娩台上がっていつのまにか出産したのではなく、D76では激しい痛みにもかかわらず夫とともに分娩室に呼ばれるのを

待っている。夫の立会い出産を希望していたので、夫とともに分娩を待つという場面設定は非常に現実的で出産の予行練習をしていると言える。

D92では、Bは全体感想質問に対して、「足の付け根の痛みなど他の出産の兆候も現れている。そういうことがあったのでこういう夢を見たのだと思う。いよいよお産が近づいてきたと思う」と書いている。Bは前駆陣痛など出産の兆候が頻繁にあり、出産に対する意識が強くなっていたためこのような夢を見たと考えられる。この夢を見て、「いよいよお産が近づいてきたと思う」と書いていることから、D92はBに出産に対する心理的準備をさせていたと言える。

CはD22において、出産に対して夢のなかで恐怖や不安といった感情は抱いていなかった。D22の記録には、「予定日はまだ4か月も先なのに、なんで予定日の夢を見たんだろう？出産のための入院は一大事な気がするのだが、夢の中では、日常生活の一部みたいな感じがした。入院してくださいと言われてもあわてた気分になることはなかったので、出

産に向けて心の準備ができつつある、ということなのかなと思った」と書いてある。つまり、D22は出産に備える心理的準備が整ったことを夢主に教える機能があったと考えられる。また、Cは出産を非日常的な特別な経験ではなく、日常生活の一部と無意識のなかでとらえていたことがわかる。実際、Cは陣痛の痛みはほとんどなく、分娩時間は2時間未満という、初産にしては珍しいほどの安産であった。分娩をスムーズに進ませる要因はいろいろとあるだろうが、Cが妊娠初期から出産に対して肯定的に捉えており、妊娠6か月という早い時点で心理的準備が整ったことが関係しているかもしれない。

### 3-4 育児に関する助言をする機能

ここでは、夢主が育児についての指針を得られたりした夢について吟味する。検討対象の夢は、Bで1個、Cで2個である。表8は、育児に関する助言を得る夢を見た初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。

BのD88は家庭環境に恵まれなかった男性の後見人に夢主が指名される夢である。Bは

心理学を専攻しており、児童相談所で心理士として勤務していたことがある。家庭環境に恵まれなかった男性の後見人になるという夢内容は、Bが家庭環境に恵まれない子どもたちと関わったことがあったことと、里親制度について関心があったことが関係していると思われる。BはD88の全体感想質問に対して「社会から罰せられるような人でも、そこに至るまでにいろいろなことがあったのだろうと思う。夢のなかで男性が言ったことは一つの真実ではないかと思う。夢から、子どもを微笑んで見つめていればそれでいいよという子育ての助言をされたように感じる」と書いている。また、Bは伝達-警告質問に対して、「あまり子育てを難しく考えなくていい。微笑んで見守っていればそれだけで子どもは満たされる」と書いている。また、夢のなかでBが夫とともに被告人の男性の後見人になる決意をしたことは、「夫婦で協力して愛情を持って子どもを養育したい」という母性的意識と関連があると思われる。つまり、D88は、男児の養育についての助言を与え、Bの母性的意識を発達させたと言えるのではなかろうか。

表9 育児に関する助言を得る夢

初産婦	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D88	9か月	裁判所らしきところで、若い男性が判決を言い渡されるところにいる。被告人の男性が罪を悔い改め、愛着を持って見守ってくれる人がいたら罪を犯さなかったと述べる。裁判官は服役後の後見人に私を指名する。びっくりするが、夫とともにその男性の世話をしようと決断する。
C	D3	2か月	2歳くらいの女の子を連れて弓道場へ行った。その子は自分の子どもで、しばらく先生に子どもの相手をしてもらい、私は練習をする。子どもは先生たちと一緒に道場の隅でお茶を飲んだりおやつを食べたりしている。そのうち子どもがぐずりだし、あとちょっとだけ練習させてねと話しかけた。
	D10	4か月	お座敷で大勢の人が食事をするのを手伝っている。なかなか食事を取れないので、一番下の妹が子どもを見ていてくれることになった。妹は自分の子どもたちも連れて外に散歩に出かけた。子どもは甥と一緒に歩きたいと思うように歩かず、泣きべそをかきながら一生懸命後を追っていた。しばらくして、迎えに行くことにした。妹の家に着くと、子どもは甥や姪と仲良く遊んで楽しそうにしていた。



CのD3は、登場した子どもがすでに2、3歳くらいの幼児で、弓道場でCが練習し、子どもがいろいろな人に関わってもらいながら母親を待っているという育児場面が非常に具体的である。Cは夢のなかの感情について、「道場の人たちに子どもを歓迎してもらえてホッとした。練習ができて楽しかった」と書いている。天候のよい日に子どもとともに弓道場に出かけ、親子が周囲から温かく受け入れられている状況は、出産後の親和的な親子関係と育児支援の可能性を示唆するものである。全体感想質問に対してCは、「これからはお稽古をするのも大変だと思っていたが、夢を見た後、今まで通りには行かないかもしれないけど、何とかなるかな、という気持ちになった」と書いている。伝達－警告質問では、「趣味はマイペースで続ければよい」と書いている。つまり、D3を見たことによってCは、趣味の弓道はマイペースで続ければよいという育児に関する助言を夢から与えられたと言える。

CのD10に登場した男の子は、歩き始めたばかりの子どもと記録に書いてあるので、おそらく1歳から1歳半くらいであろう。D3と同様に、妊娠初期でありながら登場した子どもが幼児で、ぐずったり遊んだりしている姿が非常に現実的である。これは、Cがかなり早い段階から育児生活について具体的に理解していたことの現われであると言える。全体感想質問では、「いつもは私が妹の子どもを預かるので、逆の立場になるのは不思議な感じがした。私は人に頼みごとをするのが苦手というか、自分でやるほうが早いと思ってしまふことが多いが、子どもが生まれたら、いろいろな人の力を借りることになるのだろうなと思った。夢の中で妹の力を借りて、子どもがいとこと仲良くなるという良い結果になったので、時には人を頼ることも悪くない

のかもしれないと思った」とCは書いている。また、伝達－警告質問では、「これからは上手に人の力を借りたほうがよい」と書いている。Cはもともと人に頼ることが苦手であったことを考えると、子どもを妹に預け、それがよい結果になっているという夢内容は非常に意義深い。D10は、Cに育児に関する具体的な場面を提示しながら、「これからは上手に人の力を借りたほうがよい」という育児に関する助言を与えたと言える。

### 3-5 母性的意識の発達を促す機能

出産後、実際の母性的行動を取るには、妊娠期からの母性的意識の発達が必要である(新道, 1990)。ここでは、夢が母性的意識の発達を促した夢について吟味する。母性的意識の発達が見られた夢は、Aで1個、Bで3個、Cで1個、Eで1個であった。表9は、母性的意識の発達が見られた初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。

ここで取り上げるAのD1は、山根(2006)でも吟味したものである。姉が自分の意思とは異なりトマトを全部ピザにしたことに関してAは、「母親にもなるし、もうちょっと大らかになれたらな、と思うんですけど」と述べている。つまり、D1はAが母親になるのに「大らかさ」が必要であることを提示し、母性的意識の発達を促したと思われる。

BのD15に登場した男の子は中学生であった。5人の初産婦の夢に現れた子どものなかでは最も年長である。また、Bと夫は中年世代で未来の親子関係を具体的に提示していたことが大変興味深い。Bは記録に、「男の子でもいいじゃない、男の子でも可愛くて仕方なくなるよと夢から言われた感じがする。夢を見たら、男の子でも悪くないな、雪かきもちゃんと手伝ってくれたし、男の子は男の子の良さがあるよなと思って落ち着いた」

表10 母性的意識が現れた夢

初産婦	夢番号	妊娠月数	夢内容
A	D1	6か月	家のベランダでトマトを育てていて、たわわに実っている。そこに姉と甥と姪が遊びにくる。トマトソースにして少しピザにしようと思っていたけれど、いつのまにか姉がすべてピザにしてしまってちょっと悲しくなる。
B	D15	3か月	雪が降るなか夫と2人で誰かを待っている。門から中学1、2年生くらいで学生服を来た男の子が自転車に乗って庭に入ってくる。その男の子を見た瞬間、私はすごく嬉しくなり、安心する。大雪のなかよく帰ってきたねと私と夫はその男の子に言う。
	D19	3か月	おじいさんに下腹部を押さえられて、押さないでくれと怒って言う。
	D92	10か月	赤ちゃんが男の子で水頭症だった。(詳細は既述)
C	D2	2か月	実家に帰ってくつろいでいたら、いきなり戦国武将みたいな人が入ってきて追いかけられた。お腹の赤ちゃんを守らなければと考えながら逃げた。
E	D8	7か月	自分の英語教室にいて、何人かの生徒がレッスンをしているのではなくて遊んでいる。生徒の1人がどこへ出かけたなどの話をしていてそれを穏やかな気持ちで聞いている。なぜか身長を測ってあげた。

と書いている。D15は、女兒を強く希望していたBに対して、男児の良さや男児の場合であっても良好な親子関係を築いていることを具体的に提示している。つまり、Bに胎児が希望の性別でない場合の心理的準備をさせていたと考えられる。また、男の子に対する特別な感情、つまり母性的感情を夢のなかで体験することによって、「男の子であっても自分の子どもとして受け入れたい」というBの母性的意識が発達したと言える。

D19の夢のなかの感情についてBは「(おじいさんに対する) 怒りと、赤ちゃんを守らなければいけないという気持ち」と書いている。また、全体感想質問に対してBは、「お腹に負担をかけないように常に気をつけているからこんな夢を見たのかもしれない。それと、夢のなかでもお腹を必死で守ろうとしているので、自分が妊婦だという自覚ができてきたように思われる」と書いている。つまり、「私は母親である(なろうとしている)」という母性的意識と、「わが子を守らなければならない」という母性的意識がBのなかで発達していたことがわかる。

D92の記録を見ると、子どもが自閉症や水

頭症ではないかとBが非常に不安に思っていたことがわかる。全体感想質問に対してBは、「この子が自分の子どもなんだとすごく男の子が愛しかつたので、赤ちゃんが男であろうと女であろうと、障害かあろうとなかろうと自分の子どもとして受け入れる心の準備ができつつあるのかもしれないと思う」と書いている。つまり、D92には、「この子は自分の子どもである」というBの母性的意識と、「性別や障害の有無に関わらず子どもを受け入れたい」というBの母性的意識を発達させる機能があったと言える。

CはD2に登場した戦国武将に関する夢素材連想質問に対して、「威圧感がある。いきなり現れたら怖い」と書いている。C自身は戦国時代を扱った映画を観た影響ではないかと分析している。全体感想質問に対してCは、「まだ妊娠したことに実感が無い頃で、今考えると無頓着な行動が多かったように思うので、もっと赤ちゃんのことを考えて大事にしないといけないという警告だったのかもしれない」と書いている。D2を見ることによってCがそれまで無頓着な行動が多かったことに気づいたことを考えると、D2は赤ちゃん

のことを大事にしなくてはならないと警告し、Cの母性的意識を発達させていたと言える。

EのD8は、英語教室の生徒の身長を穏やかな気持ちで楽しく測っている夢である。全体感想質問に対してEは、「お腹がかなり大きくなってきたので、その成長を楽しみにする気持ちと夢の中で子どもの身長を測っていたのには何か関係があるのかもしれない」と書いている。したがって、Eが妊娠経過とともに変化する自分の体を受容し、胎児の健やかな成長を楽しみにしていたことがわかる。つまり、D8は日頃関わることの多い英語教室の生徒との関わりを通して「子どもが元気に育って欲しい」というEの母性的意識を発達させたと考えられる。

#### 4. 全体的考察

本研究では、妊娠期における初産婦5人の夢を吟味することによって、5人に限って言えば、妊娠期特有の夢の機能が少なくとも5つあることが明らかになった。すなわち、①受胎を教える機能、②母性的行動を練習させる機能、③出産に対する準備をさせる機能、④育児に関する助言をする機能、⑤母性的意識の発達を促す機能である。夢はさまざまな場面を設け、また自分の子どもだけでなく身近にいる子どもや動物を用いて夢主の母性的感情や母性的意識の発達を促していた。また、妊娠期の夢は初産婦の育児や出産に対する経験と知識の程度や、母性に関する情報を豊かに含み持っていることがわかった。

比較的夢数の多いBを見ると、妊娠経過が進むにつれて母性的行動（授乳）がうまく行えた。その結果、育児不安が軽減し、子どもに対する母性的感情が増加していた。Bが妊娠にうまく適応できたことや夫などの支援が

あったことが大きく関係している。Cの場合、妊娠初期から子どもや出産に関する夢を見ていた。それらの夢についてCが分析するなかで、子どもに対するCの母性的感情や母性的意識が発達した。A、D、Eについてもわずかではあるが、妊娠中期以降に夢が母性的行動を練習させたり、母性的意識を発達させたりしたものがあった。このように母性に関連した夢を見る頻度は個人差が非常に大きかった。調査協力者の性格やそれまでの乳幼児との関わりなどさまざまな要因が影響している。

Aのようにたとえ夢数が少なくても、有益な連想が得られる場合があった。一方、DとEはAよりもたくさんの夢を報告してくれたが、有効な連想が得られない場合がよくあった。筆者と会えなかったことが原因の一つであろう。つまり、筆者と各調査協力者との関係性が夢分析に大きく影響していたと考えられる。したがって、今後の課題としては、調査者と調査協力者との信頼関係を深められるように面接する機会を増やしたりするなど調査方法の改善が求められる。また、調査の際には初産婦の生育歴、性格、取り巻く状況などをもっと詳しく調査・分析し、初産婦が母性を発達させる過程や要因を明らかにする必要がある。加えて、本研究では高学歴で心身ともに健康な初産婦であったが、望まない妊娠など母親への移行が難しいと考えられる初産婦の夢を調査し、本研究の結果と比較・検討する必要がある。

## [引用文献]

- 蘭香代子 (1989) 母親モラトリアムの時代. 北大路書房.
- Garfield, P. (1990) Woman's body images revealed in dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, 152-160.
- Hall, C. S. & Van de Castle, R. L. (1966) *The content analysis of dreams*. New York: Appleton-Century-Crofts.
- 花沢成一 (1992) 母性心理学 医学書院.
- 原田梨沙 (2006) 妊娠・出産・育児期における女性の心理のプロセス—ある初産婦の夢分析から 山口大学大学院教育学研究科修士論文.
- 河合隼雄 (1988) 総論 (河合隼雄・鍾幹八郎編, 夢の臨床, 金剛出版, 11-36)
- 的場みぎわ (1998) 妊娠・出産・育児過程における女性の夢の研究 箱庭療法学研究, 11(2), 85-92.
- Maybruck, P. (1990) Pregnancy and dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and dreamwork*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, 143-151.
- 名島潤慈 (2003) 臨床場面における夢の利用—能動的夢分析 誠信書房.
- 名島潤慈 (2008) 夢のなかに表れる感情の分類 山口大学心理臨床研究, 8, 3-12.
- 名島潤慈・山根望 (2008) 妊娠期における夢のなかの感情についての検討 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 25, 375-385.
- 大日向雅美 (1988) 母性の研究—その形成と変容の過程: 伝統的母親観への反証 川島書店.
- Rubin, R. (1984) *Maternal identity and the maternal experience*. New York: Springer. (新道幸恵・後藤桂子 (訳) 母性論: 母性の主観的体験 1997 医学書院)
- 新道幸恵 (1990) 親意識および親役割と援助 母性の心理社会的側面と看護ケア. 新道幸恵・和田サヨ子. 医学書院, 97-128.
- 武内珠美 (1984) 妊産婦に関する夢の研究—夢に表わされた情動と夢内容について 広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集, 10, 139-145.
- 鍾幹八郎 (1979) 夢分析の実際—心の世界の探求 創元社.
- 山根 望 (2006) 妊娠・子育て期における夢の機能—ある初産婦の能動的夢分析から 山口大学心理臨床研究, 6, 30-41.
- 山根 望・藤井優子・名島潤慈 (2008) 母性・母性意識・母親意識・母親同一性の概念の検討 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 26, 177-187.
- 山根 望・河合可南子・八田有加・佐藤直弘・渡邊ふくみ・名島潤慈 (2006) 妊娠と出産に関する夢研究の展望 山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 22, 193-204.
- 山根 望・名島潤慈 (2009) 初産婦の夢—妊娠・育児期の夢に現れた動物の意味の検討 山口大学教育学部研究論叢, 58(3), 241-249.
- 山根 望・名島潤慈 (2010) 妊娠期における夢のなかの感情—5人の初産婦の夢分析から山口大学教育学部研究論叢, 59(3), 269-276.
- Van de Castle, R. L. (1994) *Our dreaming mind*. New York: Ballantine Books.
- Winget, C. & Kapp, F. T. (1972) The relationship of the manifest content of dreams to duration of childbirth in primiparae. *Psychosomatic Medicine*, 34, 313-320.